

氏名 井 上 裕 史

授与した学位 博 士
 専攻分野の名称 医 学
 学位授与番号 博乙第 2884 号
 学位授与の日付 平成7年 6月30日
 学位授与の要件 博士の学位論文提出者

(学位規則第4条第2項該当)

学位論文題目 Distribution of Complement Regulatory Proteins, Decay-Accelerating Factor, CD59/Homologous Restriction Factor 20 and Membrane Cofactor Protein in Human Colorectal Adenoma and Cancer(大腸腺腫、大腸癌における補体制御因子(DAF, CD59/HRF20, MCP)の発現)

論文審査委員 教授 中山 睿一 教授 太田 善介 教授 折田 薫三

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

近年、ヒト癌における補体を介する免疫応答が明らかにされてきた。そこで、我々は、正常大腸粘膜と比較し、ヒト大腸腺腫、大腸癌における DAF、CD59/HRF20、MCP、TCC について免疫組織化学的に検討した。正常大腸粘膜では、DAF、CD59/HRF20の発現は、散在性であり粘膜上皮細胞の apical 面に限られたが、MCP は、上皮細胞の basolateral 面にびまん性に分布していた。このことから大腸における補体の活性化の制御には MCP が重要な役割を果たしていると推測された。さらに、大腸腺腫では、DAF、CD59/HRF20の発現が増強し、大腸癌では、CD59/HRF20の発現が減弱するも DAF は著明に増強し、癌腺管の管腔内に DAF の発現を観察した。これは、DAF が管腔内に遊離したと推測され、癌患者における便中には DAF が多く含まれる可能性が推測された。現在、我々は大腸癌のスクリーニングに役立てるため便中 DAF の測定を行っている。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、大腸腺腫および大腸癌におけるDAF、HRF20および MCPなどの補体制御因子の発現を検討したものである。この結果、DAFは腺腫および癌で比較的特異的に発現し、特に管腔内にも認められることから診断的な価値を明らかにしている。癌細胞では MCPの発現が強く、癌増殖における MCPの関与を示唆している。これらは、腫瘍免疫学において重要な知見であると考えられ、博士(医学)の学位を得る資格があると認められる。